



執行役員
 住建総合技術・商品開発
 センター
 センター長

山田 昌司

Executive Officer
 Director
 General Technology & Products
 Development Center
 Building Products Manufacturing
 Business Unit

Masashi Yamada

特集「住宅設備・建材技術」によせて

環境負荷低減に対する関心が一般の人々まで高まりつつあり、エコロジーでかつ機能性に優れ、生活環境を改善できる製品が強く要望されています。パナソニックグループは、創業100周年となる2018年のグループビジョンを「エレクトロニクス No. 1の環境革新企業」と設定し、「環境」を軸としてグループシナジーの最大化を目指しております。当社も住設建材、照明、情報機器、電器等の各事業部門がそれぞれに保有する強い技術を融合して「快適&エコ」の両立を図り、新しい価値を提供するグローバル企業を目指し邁進しております。

住建事業部門では、グループの中期戦略「家・ビルまるごとソリューション」を支える「器」である空間を構成する建築部材、住宅設備、収納・建具等に関連する製品を手掛けておりますが、今後はさらに環境・エネルギー・ネットワークを包含した新しい暮らし方をユーザーに提案できる「ソリューション提供型事業体」を目指し、技術開発やものづくりの革新を推進して参ります。

その取組みの一端として、機能系で2分野、評価系で1分野、素材系で2分野について以下にご紹介します。

(1) 水の機能化分野

水に対するリスクは、地球規模で今後ますます増大していくといわれています。そのようななかで、当社は気泡のマイクロバブル化技術をコアとして、関連する水の制御技術との融合により、水の機能化と有効利用を展開して参ります。

(2) 建材の機能化分野

建材においては、従来の単に空間を構成する部材から、それ自体に空間を快適にするために必要な自立制御的機能を付加したり、エアコンディショナ等の住宅設備・家電機器と連携させて相乗的に省エネルギー効果を発揮する技術開発を進め、環境と快適性を両立できる新しい住まいを提案して参ります。

(3) 生体・五感に関する定量化・評価分野

実測が困難な人間の感覚や生理量を、光環境や人体シミュレーション技術を駆使して定量的に評価し、機器や材料の設計仕様決めに反映させています。このように、製品の完成度や感性価値の向上を図るため、評価技術の強化に取り組んでいます。

(4) 素材系－木質材料分野

多くの木質建材製品では一般的に構成材料として合板、木質系繊維ボード、化粧用の突き板等が使用されていますが、当社では反りや硬さ等の品質を改良する技術を用いて早生樹や森林認証木を使用した合板を床材の基材に適用し、表面材には高級木を使用しなくとも木目を美しく表現する特殊処理技術を用いた化粧用突き板を適用することで環境にも配慮したものづくりを進めています。さらに、床表面にアレル物質の作用を抑制する機能や、汚れが付きにくく除去しやすい機能を付加する等の快適性を追求する技術開発も行っています。

(5) 素材系－樹脂材料分野

とくに水周り設備に多く使用される人工大理石では、石油由来の材料の一部をバイオマス由来化し環境に配慮したうえで、意匠性・耐熱性・防汚性・耐傷性等を向上させるという両面から材料と工法の技術開発に取り組んでおります。

本号では、住まいと住まう人に関係の深い住設建材におけるこれらの新技術の一端を紹介しております。ご高覧賜り、ご意見やご要望をいただければ幸甚です。